

令和2年10月11日  
優勝決定戦のベストショット



青松園A 決勝戦 三苦フレンズ 対 三苦ホーネッツ  
完璧な試合運びで初優勝を勝ち取った三苦フレンズナインのVサイン。

写真：奈多サンデーズ 八島 久徳

青松園A 三苦フレンズ悲願の初優勝！エースが完封13奪三振、主砲が決勝3ラン！

三苦フレンズ 0000031 4 山口○ー佐藤（由）

三苦ホーネッツ 0000000 0 矢野●ー広木

HR：海山（三苦フ） 2BH：永家（三苦フ）

新型コロナウイルスの影響で7月まで開幕が遅れたため、今年は12チーム（ブルーマーリンズが不参加）を6チームずつの2リーグに分けての総当たり戦を行い、各上位3チームによるトーナメント戦で優勝を争うこととなった。決勝戦は、絶対的な投手力に強肩捕手のバッテリー力を使い、前評判の高かった三苦フレンズと、予選でフレンズ相手に0-5と辛酸を舐めたが、総合力では決して引けを取らない三連覇のかかる三苦ホーネッツ。どちらもAリーグを4勝1敗で勝ち上がったチーム同士の対戦。

各チームライン上に整列しての挨拶で決勝戦の幕は上がった。まずリーグ戦での対戦時とは打順を入れ替えて来た先攻の三苦フレンズがホーネッツ矢野投手に襲い掛かる。一回表、一番生野（拓）選手、二番佐藤（由）選手が連続レフト前で出塁すると、三番山口選手が痛烈なセンター返し。これをホーネッツのセンター稲葉選手が果敢にスライディングキャッチに行くもグラブの土手に当たりキャッチならず。これを見て二塁ランナーの生野選手がホームを突くが好返球でタッチアウト。後続も打ち取られ先制ならず。一方三苦フレンズ先発の豪腕・山口投手はホーネッツの強力打線を相手にいきなり三者三振のスタート。フレンズは二、三、四回と二死から出塁するも、矢野投手が次打者を三振に打ち取れば、

広木捕手が盗塁を刺殺して踏ん張りを見せる。ホーネッツは二回裏、先頭の四番広木選手がタイミングを外されるも内野安打でノーアウトのランナーを出すと、続く塚（恭）選手は四球を選び無死一二塁の絶好のチャンス。ここでホーネッツ朝川コーチから得意のバントのサインが出るも六番稲葉選手、七番今田選手が決めきれず二死。八番只松選手も果敢にスイングするもライズボールに三振。ホーネッツはこの後チャンスらしいチャンスを作れぬまま回は進み0-0で迎えた六回表。球威が落ちてきたホーネッツ矢野投手は一死後二連続四球を与えてしまい、迎えるのは今季初出場の五番海山選手。過去二打席はサードフライに投ゴロと凡退していたが、甘いベルト付近の球を一閃、弾丸ライナーで右中間へ3ランHR。今年40歳の元甲子園ボーイが大仕事をやってのけた。勢いに乗るフレンズは七回表、途中出場の永家選手がライト線に技ありの二塁打を放ち無死二塁。一死後、一番生野（拓）選手がセカンドへ痛烈なゴロ。これが井手二塁手の寸前で跳ね上がり永家選手がホームイン。貴重な4点目を挙げる。最終回、最後の攻撃の三苦ホーネッツの前に立ちはだかったのは、自身3安打を放ち乗りに乗っている山口投手。その剛腕から放たれる快速球、ライズ、ドロップ。どれも一級品のそのボールは面白いようにバットを掻い潜り佐藤（由）捕手のミットに吸い込まれる。四番から始まるホーネッツ打線をいとも簡単に三者三振に仕留め、ついに三苦フレンズが悲願の初優勝を飾った。ベテラン選手が温かくベンチで見守り、中堅が見本を見せるかのような働きを見せ、若手が元気に声を出す。打つ者が打ち、エースが締める。打っては9安打1HR4得点、投げては1安打完封13奪三振2四球。守っては、捕殺1失策1失点0。三苦フレンズの理想的な勝利の中で筆者の目を引いたのが、サード松尾選手がホーネッツ二番井手選手のセーフティバントとスラップの打球を上手く処理した点。寺山、田中、御手洗、永家4選手がベテランながらハツラツとしたプレーでチームに勢いを与えた点。そして先頭打者として主将としてチームを引っ張った生野（拓）選手の一回り成長した姿だった。バッテリーが高いレベルで安定している事こそ最も評価に値するのかもしれないが、それ以外でもフレンズ自体の成長が評価されて然るべきだろう。来シーズンは「打倒三苦フレンズ」となって全チームが挑んでくる。試合中だけでなく、試合前後の振る舞い、会議、準備、審判、グラウンド整備、後片付けと、どれをとってもトップに相応しいと言われるチームになって欲しいと切に願う。（記事・写真：編集部長 奈多サンデーズ 八島 久徳、写真：ソルトベイスターズ 荒尾 淳司）



初の決勝戦に臨む三苦フレンズの面々。



三連覇がかかった三苦ホーネッツの面々。



三苦ホーネッツ先発の矢野投手。



一回表、レフト前を放つフレンズ一番生野拓磨選手。



二番佐藤由志基選手もレフト前で続く。



三番山口選手のセンター返し。



生野選手がホーム突くもタッチアウト。



三苦フレンズ先発の山口投手。



ホーネッツ二番井手選手のスラップも空を切る。



三番西村選手もライズボールに三振。



二回表、二死からセンター前を放った御手洗選手。



二回裏、先頭で内野安打を放った広木選手。



挟まれそうになるも何とかセーフ。



五番堺恭祐選手が四球を選び無死一二塁のチャンス。



捕邪飛をキャッチする佐藤捕手。



三回表、二死からピッチャー返して出塁する山口選手。



攻めあぐねる状況に渋い表情で腕組みの朝川コーチ。



投球に合わせて距離を詰める松尾三塁手。



ホーネッツ井手選手のスラップを捌いた松尾三塁手。



フレンズ海山選手を打ち取るホーネッツバッテリー。



四回表、痛烈な右中間への当たりを放つ寺山選手。



寺山選手の当たりを弾いたセンター稲葉選手。



二盗を試みる寺山選手だが広木捕手が阻止。



五回裏、エラーで出塁も二盗を阻まれる山崎選手。



六回表、四球を選び海山選手に繋ぐフレンズ四番松田選手。



均衡を破る3ランを放ったフレンズ五番海山選手。



快心の当たりを噛み締めるように三塁を回る海山選手。



海山選手を出迎える松田選手と吉村選手。



嬉しさ爆発の海山選手とフレンズナイン。



フレンズベンチ也大興奮！



最高の笑顔の海山選手。



七回表、途中出場の永家選手が技ありのライト線へ。



二塁を狙う永家選手。



セカンドへ痛烈な打球を放つ生野選手。



激走でホームインする永家選手。



やったぜ!とガッツポーズの永家選手。



永家選手をお出迎えのフレンズベンチ。



痛烈な打球を放つ佐藤由志基選手。



3打数3安打1四球の山口選手。



七回裏、三者三振に仕留めゲームセット。



激戦の終焉。WSL今季最後の試合も決着。



やや硬い表情ではいポーズ。



4 点目を叩き出した生野拓磨主将、 猛打賞に完封勝利の山口投手、 勝利打点の3ランを放った海山選手。



三苦フレンズ歓喜の胴上げ。





カメラ用に三苦フレンズ歓喜の胴上げアゲイン\ (^o^)/